定住促進住宅の必要性について

問 定住希望者を受け入れる姿勢として、定住促進住宅の有効事例がある。また、過疎地に建設し、活性化に繋がった事例もあり、検討する価値があると思われるが。

答 で・くらすサポート会議でもそうした提言があった。事業費の問題もあるが、市の空き施設利用を含め、緊急的な課題として取り組みたい。

問 23年度で186件の申し込みがあったにも関わらず、定住者が少なかった理由は。

答 一軒家の需要が多く、希望に合わない実態がある。

問 定住後の地域との連携について調査しているか。

答 年一回の交流会や、自宅訪問を実施している。

問 定住後のトラブルも多いと聞くが、実態は。

答 空き家状況を実際に見学したり、近所の方々に紹介したりもしている。で・くらすのワンストップ窓口化として、定住後の相談にも応じている。

問 農地持ち定住者であっても、実際には農業に携わっていない実態があるが。

答 移住して農業に携わる新規就農者の見極めをしっかりして対応したい。

家を買う場合、農地も付いている事例もあり、関係機関と連携を密にして取り組みたい。

しいたけ農家に対する放射能問題対策について

問 しいたけ生産においては、放射能の影響により販売できず、生産活動が窮地に陥っている。国・県の対策方針が決まらないということではなく、市として早めの対策を進めるべきでは。

答 乾ししいたけは、販売自粛になっている。生産者が保管している乾ししいたけは、県の方針が決まるまで、市が1箇所に保管する。

問 後方支援を支えて来た市民が、そういう被害を受けていることを、市はどのように受け止めているか。

答 現在、汚染されたホダ木の処分方法を検討しているが、再生産に向け時期的なこともあるので、しいたけ農家の放射能問題への対応に決意を持って臨んでいく。

しいたけ

ホダ木

通学路の点検内容とその結果について

問 通学路の総点検内容と点検結果及びその改善内容について伺う。

答 毎年春に、地区のＰＴＡが通学路を確認し、それを基に各学校の先生方で危険箇所の有無を点検している。さらにその結果を受けて、道路管理者、教育委員会、学校の先生、交通安全協会の関係者立会いの下で、現地を確認しながら協議し、改善方針をまとめている。その主な改善内容は、横断歩道やカーブミラー・信号機・標識の設置、草丈の高い箇所の草刈りなどである。なお、今年度は54箇所の改善要望のうち、37箇所を改善し、対応困難なものや、改善を要さないもの9件、急を要さず今後の継続検討事項8件という内訳である。